



2023.4.25 No.45

発行 泊原発の廃炉をめざす会

TEL 060-0808

札幌市北区北8条西6丁目2-23-806

TEL 011-594-8454

FAX 011-594-8455

URL https://tomari816.com

E-mail info@tomari816.com

郵便振替口座 02790-1-100850

●●● 7月14日(金)控訴審が始まります ●●●

みなさまには大勢の傍聴をお願いします。

2023年3月6日札幌高等裁判所において進行協議期日があり、第1回口頭弁論期日が7月14日(金)午後2時30分からと決まりました。進行協議では裁判所により、以下のようないかと整理、確認がありました。

当方控訴事件について
(原発から30km圏外の1審敗訴原告の事件)、①差止請求・現在稼働していない原発を今後稼働させるな、②燃料撤去請求・稼働していなくても使用済み燃料が置いてあること自体が人権侵害であるため、敷地内所定の場所に移動させろ、③廃炉請求・燃料がなくてもプラン特許があること自体が人権侵害であるため、廃炉手続をとれ。

被控訴事件(30km圏内の1審勝訴原告の事件)について、燃料の危険性は審判対象ではないことを確認。北電側は敷地内断層・基準地震動・基準津波・火山について主張を予定していること。裁判所は審理時点で人権侵害があるかないかを裁判所が判断するのであり、行政手続を待つつもりはないと明言しました。

3月12日に「脱原発・自然エネルギーを進める会」主催の3・11フクシマを忘れない苦小牧集会で、菅澤紀生弁護団事務局長が「泊原発差止訴訟の意義」と題して講演を行いました。

講演は2022年5月31日の差止判決言い渡し後、年末にようやく控訴審の進行協議の打診があつたこと、明けて3月に入り一回目の進行協議が始まり、控訴審第1回口頭弁論期日(7月)が定まつたと、現状の裁判の進行の報告でスタートしました。続いて昨年の5月31日の差止判決の骨子・要旨に沿つてその内容の説明をしました。その中で判決について「30kmの原告に限定された差止にすぎない『小さな勝利』」という評価もあるが、原発差止訴訟で勝訴し大きく報道された意義は大きく、廃炉に向けた運動に勢いを与えるものと捉えるべき」と意義が示されました。

2023年(令和5年)3月14日(火曜日)
「核燃料撤去も争点に」
苦小牧 泊訴訟原告弁護士が講演
1フクシマを忘れない
主催 脱原発・自然エネルギー

泊原発の運転差し止め訴訟の意義について話す菅澤弁護士

北海道新聞苦小牧版でも大きく取り上げられました。

文責：事務局長 廣谷 淳一

フクシマを忘れない集会

菅澤紀生弁護団事務局長

発訴訟をしてきたグループから提供される専門的な情報と国の発表との差にショックを受けたこと、そして小野有五先生(現北海道大学が名誉教授)の最終講義あたりから廃炉の会結成への動きに至つたこと、それまで〇〇削減や都市問題などしたこととに注力してきたが、環境問題に関心のある弁護士として原発問題を無視できないと、自ら活動するに至つたことが語られました。また控訴審に向けた幾つかの戦略が示されました。詳細は省きますが、規制委員会の変化、一概に言えない北電優位となりうる事情など、控訴審に向けた光と影の不確定部分が多くある中、今日のような集会をはじめとする法廷外での様々な闘い(選挙を通じての国政の転換や条例が重しどうつている北海道知事の存在)はとても重要であると訴えました。

フクシマから12年 原発と核ゴミを考える3.11集会

第1部 今、伝えたいこと

（こどもたちに核の「ない」寿都を！
町民の会）

宍戸 隆子さん

（福島から自主避難）

北海道に自主避難している避難者は802名の登録があるが、登録されていない人の推定は2,000人～3,000人と言われている。最近問題なのは、避難者たちのつながりがなくなってきたこと。福島のことも達300人くらいが甲状腺癌の治療を受けている。しかし、原発の影響とは認められない。避難訓練はなんの役にも立たなかつた。本気で原発を止めて欲しい。

佐藤 英行さん

（後志・原発とエネルギーを考える会）

3基の泊原発から6～7キロ離れているところに住んでいます。核ゴミの処分をどこに選定するか、（経済的に）弱い自治体に話しが持ち込まれる。その結果分断が起きた。片岡町長は、文献調査の受け入れは洋上風力を進めるために必要で、「これはビジネス」と答えている。寿都町と後志管内の闘いは全道・全国に波及している。寿都町民の闘いはまだ未来が見えていると思つ。



三木 信香さん

三木 信香さん

（こどもたちに核の「ない」寿都を！
町民の会）

寿都町が核ゴミ最終処分場を誘致するかどうかの報道を機に、生活が一変した。賛同人43名で町民の会の活動を続いている。しがらみや分断の疲れで以前より活動のマンパワーが減っている。寿都町民だけが苦しみ、押しつけられる問題ではない。核ゴミの最終処分場について、国民的議論の必要性を伝えて欲しい。

今日は、「3・11」のNHKラジオを聞いていたら津波・地震の話しさは流れましたが、福島原発の事故については触れられていませんでした。福島原発の汚染水問題は現在進行形です。北海道は昨年、泊原発の「稼働差し止め」の判決を得ました。小出先生の今日の講演を基に、核ゴミ問題や新しい原発はどういうものなのか、一緒に勉強して行きたいと思います。

文責..事務局 田中 和子



マスクも入って会場は超満員

第2部 小出裕章講演会

（福島の事故と、でたらめな原子力政策）

12回目の「あの日」、自治労会館には、定員250名を上回る300名余りが集まり、チケットが無くなる、という事態になりました。当然席は無く立ち見にあふれ、数年にはない熱気に包まれていました。

オンラインの申し込みも80余名という例年の2倍だったそうです。

冒頭から、災害弱者の犠牲の話でした。

双葉病院での90人の患者置き去り、45人死亡という事実。「原発さえなければ」と書き残し、自死した酪農家さん。

実はこの日、JR北海道は、電力系統異常のため千歳線が運休となり、小出裕章氏は島松駅まで駆け付けお迎えにあがり、なんとか講演時間には姿を見せてくれました。

川原茂雄さんが、高速で島松駅まで足止めというアクシデントにも見舞われました。

トにも見舞われました。見せてくださいました。

た原子力発電所。ところが、標準的な原子力発電所1基を1年間動かすためには、広島に落とされた原子爆弾千発を超えるウランを核爆発させなければいけない。それを知ったときに、「原子力発電所のこの機械はダメだ。」と思ったそつ。それからは、「原子力発電を全廃させよう」と思つて50年以上生きてきた。」と。ですが、「残念ながら福島の事故が起きてしまつた。」と懺悔ともとれる言葉が何度かされました。

「原子力発電所は機械なんだ

すから、事故が無縁などという事は絶対にない」と力説する。

当時、専門家たちは、思った。「安全装置をたくさんつけて慎重に運転したら大丈夫だろう」誰も、事故が起きてほしい事故は起きてしまった。

そして「事故が無くても悲惨な原子力」の話が続きます。ウラン鉱山からウランを掘るだけでも放射能は拡散している。ウランを核分裂させてしまえば放射能の量は実は1億倍にも増えてしまつ。自然にも放射能を浄化させる力はない。福島原発の汚染水は、今や130万トンを超えてしまっている。専門家は、薄めて流せば安全だ。という。海に流したところでも、海が放射能を消してくれるわけではない。安全なんて言つては決してない。

生命環境から隔離するといふなら、低レベル廃棄物でも300年、高レベル廃棄物では10万年から100万年の長きにわたる隔離が必要。会社という組織の時間の長さ、国家という組織の時間の長さ、の表が出る。それらに比べてなんと長い隔離年月か。

北海道での講演という事もあるためか、小出氏は、冒頭から「北海道は狙われている。」と力説していました。

「火電は、東京湾にたくさん作られている。なのになぜ、原子力発電所は作らないのか。理由は明確だ」「危険だからだ」

「でも、中間貯蔵施設は違う。保管しておくだけなんだか、ここのぐらいは東京に作ればいい。」

「40年廃炉」スケジュールはどうやって組み立てられたか

「札幌だつていいのだ。皆さんは嫌でしょうけれど」正直ドキリとした。

「もし、寿都町や神恵内村に作るのであるのなら、札幌でも作つてほしい。私はそんな風に思っています。」



穏やかな表情で問題を鋭く突く小出さん

原子力推進派による、科学的な特性Mapに寄れば、神恵内村に適正な場所はない。余別岳の15キロ圏内は、不適正地である。神恵内村のほとんどはこの圏内。ほんの少し使える場所、推進派は薦める。

そこから海に向けて斜めに坑道を掘つて海に埋めてしまえばいいという沿岸海底下処分を推進派は薦める。

電気をほとんど使っていない、電気の恩恵を受けない人たちには、ごみだけを押し付けるなどしてはいけないし、もともと自分で始末できないごみなどを作つてはいけない。

今回の講演で特筆すべきことは、各マスコミも報じていますが、「使用済み核燃料中間貯蔵施設」についてです。

現在、東電と日本原燃が、青森県むつ市に建設中ですが、この「中間貯蔵施設」は原発の様に膨大な冷却水は必要ないのです。

小出さんは、力説する。「どこに作つてもいいのだから、東京を作れ」と。

「火力発電所は、東京湾にたくさん作られている。なのになぜ、原子力発電所は作らないのか。理由は明確だ」「危険だからだ」

「でも、中間貯蔵施設は違う。保管しておくだけなんだか、ここのぐらいは東京に作ればいい。」

「40年廃炉」スケジュールはどうやって組み立てられたか

「札幌だつていいのだ。皆さんは嫌でしょうけれど」正直ドキリとした。

「もし、寿都町や神恵内村に作るのであるのなら、札幌でも作つてほしい。私はそんな風に思っています。」

序章 「廃炉」は何を目指すのか	第1章 「廃炉」はすでに大量廃炉時代
不可解な廃炉スケジュール——福島第1は40年で第2は44年?——	第2章 「40年廃炉」スケジュールはどうやって組み立てられたか
コラム 協定の力で汚染水放出を止めた	第3章 素通りされたスリーマイルに学べ
第4章 知られざるチエルノブイリの教訓	第5章 危うい現在地から問う「廃炉とは何か」
コラム スリーマイルに学べ	終章 もう一つの核廃絶」に向けて



【廃炉とは何か もう一つの核廃絶に向けて】

本の書評 岩波ブックレット

文責・世話人 村本深雪

文責・事務局 久米田佐和子

鈴木知事へ署名を提出しました

鈴木知事宛て署名「寿都町・神恵内村で行われている核ゴミ処分場を作るための調査を進めさせないでください」は、2次集約分 39,319筆を3月22日道庁へ提出し、1次を含めた合計署名数は156,715筆となり帯広市、釧路市の人口を大きく超える多くの署名が集まりました。泊・核ゴミNO道連からは10名が参加。北海道経済部環境・エネルギー局、環境・エネルギー課、エネルギー政策担当課長他2名が対応され、泊原発についてや道政のあり方についての要望等を伝えました。また、午後1時から道政記者クラブで記者会見を行い、道新記者の取材を受けました。

連絡会参加団体のご協力はもちろん、連絡会以外の団体・個人の方にもたくさんの応援をいただきました。届けられた署名一通一通に込められた核ゴミNO!の思いが知事の心に届くことを願うばかりです。



新刊紹介

渾身のノンフィクション・登場人物はすべて実名 3.11 大津波の対策を邪魔した男たち

国の地震対策本部責任者で地震学者が内部から告発する!

東京大学名誉教授 元日本地震学会会長 島崎 邦彦 著

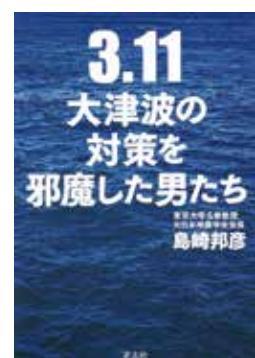
(株)青志社 本体1,400円+税

12年前の大津波の警告は、2002年の夏、すでに発表されていた。この警告に従って対策していれば、災いは防げたのだ。3・11大津波の被害も原発事故も防ぐことができたのである。

今思えば、まわりに多くの原発関係者がいた。その人たちは何が起こっているかを、わかっていたと思う。が、声をあげた人はわずかだった。その声は多くの人に伝わらなかった。もし私が背後の動きを察することができたらと、本書を書き終えてから想像する。結局、何もできなかつたかもしれない。

大事なことは声をあげること、広く声を伝えること、そしてみなで支えることだ。本書がその一助になれば、これにまさる喜びはない。

島崎 邦彦



お読みになった
感想をハイロの会あてに
お送りください

チラシも同封した本書は、登場人物がすべて実名であること、元地震学会会長が告発したことなどで、3月に発刊されたばかりの話題沸騰で廃炉の会弁護団も絶賛の著書です。

活動報告会の告知

日時・場所:未定(6月下旬の予定です)

報告内容

2022年度活動報告、会計決算報告、監査報告
2023年度活動方針、会計予算、役員体制

意見交換会

日時を今回のニュースまでに決定できませんでしたが、決まりましたらハイロの会のホームページと会員メールでお知らせいたします。

第2回 ハイロ川柳

安全なら 東京にこそ 核のゴミ

金で釣り あの手この手で 押し付ける

江別市 成田 強さん

破綻した 核サイクルを 放さぬ國

原発に 安い安全 通用せず

釧路市 伊藤 浩二さん

拒否します! ミサイル原発 自爆沼

ジワジワと 人々犯す 悪政菌

音更町 菅原 紀子さん

国策は 人殺めても 答めなし

GX GREENではなく GENSIRYOKU

札幌市 福竜丸 大吾さん

10万年 12年でも 忘れてる

札幌市 神話の世界さん

第3回ハイロ川柳を募集します。詳しくは8ページをご覧ください。



会員からのお手紙

先日は掲載確認のご連絡をいただきありがとうございました。川柳は HAIRO のニュースに面白いコーナーができたいと作ったもので、特に記録もしないで忘れていましたところへの電話であわてました。

今回気付いたことは川柳のネタさがして、ニュースも新聞も読むという効果が有ることです。今後も楽しみたいです。
(N・S様)

地域連絡会報告

釧路地域連絡会

3月19日(日)、午後1時半から釧路文化ホールにて、釧路エリアの市民運動グループー3団体主催「さようなら原発1000万人アクションin釧路集会」が開催され、釧路市民140名以上が集つた。



世話人・釧路地域連絡会
共同代表 マシオン・恵美香

十勝連絡会
写真撮影 中村廣治
菅原哲也



2月18日に、音更町共栄「ミセン」において、映画「原発をとめた裁判長」の上映会を原発をなくす十勝連絡会と共催で行いました。2回の上映で150名を超える方が参加して下さいました。規制委員会の「よって原発を運転してはならない」という端的で真っ当な司法の声が胸に響きました」という感想も寄せられています。

東日本大震災・東電福島原発事故から12年となつた3月11日に帯広駅南側広場で、「フクシマを忘れない STOP! 原発回帰 帯広アクション」をさよなら原発！新得会、原発をなくす十勝連絡会と当会の3者共催で行い、昨年より多い55名が参加しました。

参加者は、道行く市民に「政府の原発回帰・推進方針に反対、実効性ある避難計画は作り得ない、フクシマを忘れるなど」を訴えました。

今年も十勝管内全19市町村をまわるスタンディングを行ふことを計画し、早速その第1回目として、3月18日に芽室町で町民など29人で行いました。今年も頑張ろう！

十勝連絡会

泊原発廃炉の会・そらち

川原茂雄さんの講演会

2023年4月2日に総会と学習会を開催しました。総会を終えてから、川原茂雄先生の出前授業「今、なぜ原発の再稼働・新增設なのか?」をそらちの会員13名が視聴しました。

「福島事故後の国の原発政策の転換は、最長60年の原発の運転延長・次世代型原発の建設を検討等、原発の新增設や建て替えは想定しないとしていた従来のエネルギー政策の転換を打ち出しました。

ロシアのウクライナ侵攻の影響による電力需要の逼迫で原発に依存する政策に舵を切り3.11以降、原子力村は福島の原発の廃炉、汚染水の処理・核「ミ」の処分場・核燃料サイクル等の見通しが立たず、原発で利益・利潤を上げることができなくなつたが、国は前面に立つて原子力産業を特別扱いして保護することを宣言している。

GX(グリーンントランスマーケティング)推進法と脱炭素電源法が二月十日に閣議決定され、GX実現のために一五〇兆円を超える官民のGX投資とGX経済移行債を発行することになつていて。」

これらの資金によって国が原子力産業を支援することが合法化され、結局は将来世代を含めた国民が負担することになるのではないかと思つた。

川原先生は原子力基本法を改正させてはならない、最後に力説されました。

終処分と深地層処分研究に関する抗議の請願書について道議会から議会での結果が出なかつた旨のお知らせがあつたため、統一地方選挙後に再び同じ内容の請願書を提出する予定。

幹事長 中川洋子



参加者のみなさん

ハイロ通信FrOm北区
神恵内村に3回目の新聞折り込み配布

泊原発の廃炉をめざす 札幌北区の会

ハイロ通信、北区二
「核ゴミ」処分場の「事故責任不在」のカラクリ
「事故責任不在」のカラクリ
神恵内村在住の滝本正雄さんは「核ゴミ」処分場誘致を決めた神恵内村とNUMOとの「対話の場」委員会に諸団体から推挙されて公募委員になつて2年が経ちました。

滝本正雄さんから緊急・寄稿詩「『核ゴミ』処分場の『事故責任不在』のカラクリ」が届き、「ハイロ通信FrOm北区」第15号(22年12月8日発行)に掲載しました。北区の会では12月15日(土)のハイロ通信を神恵内村に新聞折り込みで配布しました。今回で3回目です。神恵内村の人口は788人、462世帯(22年11月25日現在)です。新聞折り込みは約350戸です。

村民から、「村民には内緒で処分場誘致を決めた村長や賛成議員はどう責任をとるのか、はつきりしてもらいたい」「子どもが小さいので内部被曝の遺伝による奇形児の誕生が心配です」「このカラクリが知らなければ住民が何の補償もなく被曝の犠牲になるところでした」「これからは処分場誘致に反対します」など、声が寄せられています。

核「ミ」処分場誘致に反対して「ハイロ通信」をみんなに広める活動を進めていきます。

共同代表 富田素實江

つ
た
る

グリーントランジションの愚行 フォーメーションの愚行

会員の方から廃炉の会に寒中見舞いが届きました。GXへの政府方針に対する憤りと、悔しさが寒中見舞いの文面に語られています。ことから「ユースへの転載の了解をいたまことに掲載するもので

今だに「安全神話からの脱却」していないことを自ら告白するものです。

寒中お見舞い申し上げます

「口ナ禍の寒中ですが、いかがお過

ごしでしょうか。さて、政府は年末にこれまでの原子力政策を大きく転換することを決め、通常国会で審議されます。年末に1月22日期限とするパブリックコメントの募集がありましたので、6件提出しました。6件に込めた小生の思いの一端です。

1 経済産業省の原子力小委員会で審議されましたが、国論を二分する問題にもかかわらず、審議期間が短く、原発を推進する立場の委員19名、慎重な立場の委員2名の構成でした。結論ありきの審議会でした。

2 今後の原子力政策の指向性と行動指針（案）に「福島第一原発事故の最大の教訓である安全神話からの脱却を不斷に問い合わせていく」とあります。福島第一原発事故から12年、

3 原発の使用年数の延長 原発は設計寿命40年として建設されました。例外的に60年使用も認めていますが、法律を変えてさらに延長するものです。

原発は電気を生み出す巨大な工場です。機械、電気機器、配管など古くなると故障が多くなります。一般的の工場では、故障による生産停止の損失を考え、機器類を事前に取り換えたり、場合によつては新工場も考えます。原発はどうか。重要機器に不具合が生じても放射能汚染のため取り換えができません。結局ダメシ、ダメシ使い続けるのが原発なのです。これは新たな安全神話の復活といえるでしょう。

4 高コストの次世代革新炉、事故のリスク、避難計画、核ゴミの処分など難問だらけです。

札幌市北区 中沢 敏幸
2023年1月25日

つ
た
る

「呆れたGX基本方針説明会」に参加して

原発回帰の岸田内閣が募集したパブコメに提出した中澤敏幸さんの原稿を読ませてもらいました。

全く同感であると思つていたところ、札幌で説明会が2月15日にありますと知り行つてみました。行ってみてアリバイ作りのパブコメに続きアリバイ作りのあきれた説明会でした。原発政策の根本を搖るがす大転換をほとんど議論なく閣議決定、批判が出てアリバイ的にパブコメの募集そして説明会を後付けで実施。以下政府経産省のアリバイ策動としての今回の説明会に対する様子の報告と感想です。

1 当日、参加者には「分厚く立派な」資料が渡されました。中澤さんやその他パブコメに出された疑問や意見に対する回答がどこにあるかも知れないと大急ぎで探しましたが全くありません。

2 当日の会場での参加者はわずか20数名、しかも一般の参加者は明らかに異質を感じさせるスツヅ姿の参加者が半数近くほぼまとまった形で座つていてアリバイ的な開催と「身内」への参加呼び掛けを感じました。

アリバイ作りの説明会と全く理解不可能なごじつけ、詭弁によつて国民の安全安心が急速に損なわれフクシマを学ばない日本に破滅が近づいてきているのはあながち大げさではないと感じた説明会でした。明はなく、議論を経ずごり押ししようとの思惑がありありました。

（注）GX（グリーントランジションフォームーション）とは、脱炭素社会への移行を目指す戦略のこと。



（事務局 加藤浩道）

映像資料に学ぶ原子力とキノコ雲

第16回は3月14日(火)、エルプラザ4階の男女共同参画研究室を会場に8名の参加で行いました。今回初参加の方が2名おられました。

作品はNHKスペシャル「廃炉への道～原発事故10年の軌跡～」と小出裕章氏が福島原発事故2週間後に語った「福島原発で何が起こっているのか その1」の2本立てでした。

シリーズ「廃炉への道」は、国が最長40年かかるとしている廃炉をNHKが独自に記録した映像をひも解き、原発事故から10年の時点での軌跡を見つめ、福島のこれからを展望する世界でも前例のない取り組みを記録する。2021年4月に放送された。

京都大学原子炉実験所(当時)の小出裕章さんへインタビューした作品は、シリーズ全3作のその1回目。インタビューに応える小出さんの声が涙声にも聞こえ、インタビュー時点では事故状況が明らかにはなっていなかった。「本気度の異なる2作品。映像もまた思想である。」



第1回上映「ゴジラ」

参 加 者 の 声

阿部 幸子

初回の「ゴジラ」を見落としてしまった残念さのためか、その後は忘れることなく可能な限り参加してきました。驚いたことに核爆弾や原発を肯定的にとらえているものがあつたりして、怒りを覚えることもあります。でも大半は放射線や放射能に怯え逃げまどたにもかかわらず病気になり死んでいくものだったと思います。ものがモノだけにブラックユーモアで表現しているものもあり、立場によっては答えきれない優柔不断さがさらけ出されるのもあったと思います。

核爆弾や原発を肯定的に捉えている映像もあり、ヒトという動物の身勝手さも学ばれます。放射能や放射線がわが身に降りかかることを思い知って、考え方行動して欲しいものだと強く考えさせられます。

新型コロナも鎮まってきた。多くの方が参加できることを期待しています。

稻垣 由美子

私は映画が好きで、映像から原子力を学べる好機!と参加しました。

上映作品は、古今東西、ドラマとドキュメンタリー、コメディと毎回変化に富んだ選択で、多角的に学び、考えさせて頂いています。

強く印象に残った作品『ひろしま』(1953年)は、原爆被災が生々しく描かれていて、現実的な恐さを感じました。『みえない雲』(2006年)は、 Chernobyl 事故から案を得て、ドイツで原発事故を想定した話。混乱と事故後の悲惨さは、制作5年後の福島原発事故の予告編の様でした。『東電の社員だった私たち—福島との10年』(2021年)は、事故当時の社員達が、被災者に向き合う中、実は自分達が加害者だったと気付き、その後福島の人々に寄り添い生きる姿のドキュメンタリーで、彼らの心の痛みと贖罪に心打たれました。どの映画も原子力が人間を不幸にしており、この不幸の元を無くさなければいけないと、毎回スクリーンから話しかけられています。映画会主催の事務局の皆さんに感謝申し上げます。

SATOH

映画を観始めて八十年近くになる。このところは「サンデー毎日」「全日空」勤務のため、年間百五十本程を映画館や上映会で観ている(初見のみ)。それに仕事をしていた時代の映画はあまり観ることが出来なかつたので、今その空隙を埋めるべく、テレビ、DVDで補っている。この上映会に参加したのも、未見の映画を観るためだつた。最初に観た作品は『東京原発』(22.6.15)。昨年は三回の参加だったが、今年からは、一度観た作品も、再度観ようと思い、すべて観せて頂いている。今後も観たものが多いが、名作が多いので、また観たいと思っている。

地震と火山の国日本では、原発は要らない。早く他の電源に切り替えるべきである。また北海道の産業は第一次産業、それと観光関連事業で成り立っている。道民はそのことに気づいていないのだろうか。それともう少し上映会参加者が増えればと感じる。上映の準備等で頑張っている事務局の方には感謝いたします。

伊藤 和幸

22年3月の上映会に初めて参加した。

「世界一厳しい規制基準をクリアした」と聞けば、なんとなく安全な感じになる。「核のゴミ」と言われば、ゴミには、再利用できるものがあるので、なんとなく悪い物でもないのかなと思う。「処理水」と目になると、なんとなくきれいな水になっている気がする。「中間貯蔵」と聞けば、中間だから、なんとなく仕方がない感じがする。「東日本大震災」と言われば、なんとなく原発事故も天災の一部分に過ぎないと思う。「科学の進歩はプルトニウムを再利用できる日が来る」と聞けば、なんとなく、その時、日本は資源大国になれる気がする。日本語の豊かな言い換えは、なんとなく、記憶を薄れさせる。その時その時の映像資料は、風化しない。発掘もできる。

上映会をまだまだ続けるという事務局の固い意思に、いつも、孫を連れて行こうかと思案しながら、毎月の14日を忘れまいと、老いと闘っている。

第18回上映会のお知らせ

「映像資料に学ぶ原子力とキノコ雲」の上映会は
5月14日(日)14:00からエルプラザで開催します。
 初めて参加される方は事前連絡を(090-8370-4610)

1本目 NNNドキュメント「核のゴミは問いかける」 (2020年)

核のゴミ処理場の調査に手を挙げたことについて「パンドラの箱を開けた」と表現する片岡寿都町長。名物の強風を生かし1989年から風力発電に力を入れてきました。なぜ核のゴミなのか。応募することで国から最大20億円の交付金を得ることで、過疎と高齢化のマチを救いたい町長。核のゴミはどこへ行くべきなのでしょうか。

2本目 クローズアップ現代「核のゴミと住民の分断」 (2021年)

寿都町で核ゴミの最終処分場建設に向けた調査が始まりました。

NUMOは住民の理解を深める取り組みをしているといいますが、国が設置を定める「対話の場」には反対する住民の多くが出ておらず、出席を促す仕組みもありません。国の政策によって深まる住民同士の溝をどのようにして埋めるのかを考えます。

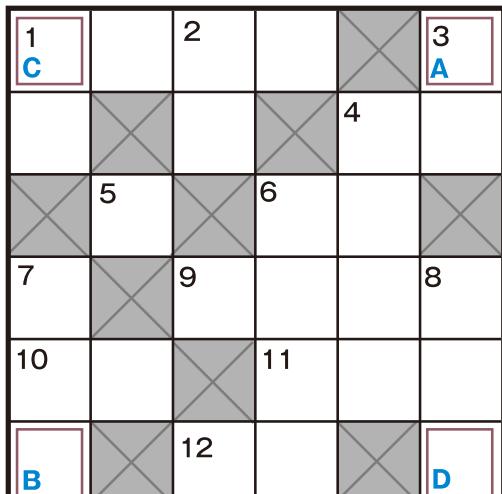


お問合せ:(ヒロタニ 090-8370-4610)

第3回

HAIRO クロスワードパズル

「ヨコ」と「タテ」のカギを解き、世界初の放射性廃棄物の地下処理場の名前を答えてください。



答え

A **B** **C** **D**

作成: 加藤 浩道 お問合せ先 090-6443-3195 (加藤)

答えは
次回のニュースで

↓ タテのカギ

- 兵器禁止条約
- 出汁と書く。コンブ○○
- 青森県下北半島○○間原発
- 県、県庁は横浜市にある
- 全国の行政区は1○1道2府43県
- クリスマスプレゼントを運ぶ動物
- 原爆、原発の原料、ウラニウムとも
- そでの下のこと

→ ヨコのカギ

- 動く可能性の高い断層のこと。○○○○層
- が広い。○○に泥を塗る
- りの芝生はきれいに見える
- 宮城県女川湾南側にある○○○○原発
- 人生○○ありや苦もあるさー♪
- ヤマハピアノ。○○○ピアノ
- 国者には気をつけろ!と鈴木邦夫、LOVE

HAIROクロスワードパズル 応募方法

ハガキに解答(カタカナでもよい)と郵便番号・住所・氏名・連絡先を書いて**5月末必着**でハイロの会クロスワードパズル係まで送ってください。

プレゼント

正解者にハイロポケットティッシュと会員さまからプレゼント用にいただいた図書カードを進呈します。

問合せ先:090-6443-3195(加藤まで)

第3回 ハイロ川柳を募集

脱原発・核ゴミ・泊廃炉に関しての川柳を募集します

- ハガキに川柳を書いてハイロの会川柳係まで
- (1通に3句まで)住所・氏名・連絡先をご記入ください。
- 応募期間: 随時
- 掲載: 川柳係が選定
- 名前は本名またはペンネーム

問合せ先:090-6443-3195(加藤まで)